同志社大学創立140周年記念

小学校とリベラルアーツ教育

小学校校長　内山伊知郎（うちやまいちろう）

アーモストと同志社小学校

同志社小学校では6年生の修学旅行でアーモスト大学を訪問しています。毎年6月に、アーモスト大学の学年暦が終了して夏休みに入る時に、学生が帰省した寮を借りて宿泊。アーモスト大学の学生がリーダーとなり少人数のグループ単位で大学内外の見学をします。全米のリベラルアーツ教育でトップクラスの大学で生活しても、小学生にとってはリベラルアーツが何かを十分に理解していることはないかもしれませんが、現地の教授や学生リーダーが語る言葉の中に、小学生なりにその雰囲気を感じていると思います。

リベラルアーツ教育の重要性

リベラルアーツは西欧で古くから基本的な技能とされた自由七科、すなわち文法や修辞学などの言語関係の三科と、数学、音楽、天文学などの四科の七科を習得して自由に思索できる力を養うことを重視しています。これが教養の柱であり、自由な人間として学ぶべきものとされました。現代では、学問が進み、細分化しています。大学の分類では、人文系、社会系、自然系となり、一般教養科目群とされていますが、自由七科はそれと対応していると考えられます。

米国では大学でリベラルアーツを修めると、さらに専門性の高い大学院に進み、各専門性を高めるのがひとつの進学コースですから、高い専門性に対する基礎能力の養成という位置づけもあります。そこで重要なのは、複数の科目の単なる羅列ではなく、領域を横断して思考する能力を養うことだと思います。広く学ぶというだけではなく、学問体系をネットワークとして修得し、自らの興味や関心によって新しい知見を構築したり、あるいは、社会において求められる課題に柔軟に対応する能力を培うことが重要です。大学でひとつの学部の専門性を学ぶのも教育的に価値あることですが、幅広い科目を学び、自由に思索する能力を育むことも社会人の教養として価値あることです。

同志社大学は、校祖の学んだアーモスト大学のリベラルアーツを範としながら、その精神を尊重しつつも各学部の専門性を有するシステムで、国内で学部の専門性の高さが評価されています。しかし、敢えてリベラルアーツを取り入れる試みが多彩になされ、その教育的な特徴は保たれています。

小学校のリベラルアーツ教育

同志社の一貫教育において、幼稚園から大学院までリベラルアーツの精神は大切にされています。同志社小学校では、そもそも、カリキュラム自体に自由七科が反映されています。小学校ではとくに高い専門性が求められるわけではなく、国語、算数、社会、道草、という担任による教育と、専科の教員による宗教、英語、理科、音楽、図画工作、保健体育、家庭科など、生活や社会人として必要な基礎を学んでいます。ただ、これらの科目が並列的に学ばれるだけでは、真のリベラルアーツとは言えないと思います。この科目群が有機的な関係をもってこそ、実社会で活きた技能として発揮されるのではないでしょうか。

本校発行の研究収録に詳しく記載されているように、本校では結果主義的な学力観に惑わされることなく、子どもたちの未来を根底から支える学力の形成を目指しています。これは柔軟かつ幅広く思考し、習得した知識や技能を良心と知性を持っていかす総合的な「人間力」というべきもので、子どもたちが自ら学習に向かう姿や構えを育てようとしています。具体的な取り組みとして、読書、体験型の授業、道草教育を挙げることができます。

まず、知識を増大させるために大切な読書を積極的に奨励しています。蔵書数は2万冊を超え、図書室内の「おはなしの部屋」では、低学年を中心に読み聞かせなどの時間をとっています。児童の読書に対する興味は高く、本を手にすれば夢中になって読む姿が見られます。

また、体験の重要さは知識を現実社会と関連させるために重要です。認知発達の段階が具体的思考期といわれる児童期は、抽象的な理解力が未熟なので、実際に体験する機会をもつことが後の発達の基盤となります。そこで、社会見学などの体験を積極的に取り入れ、知識を現実と結びつけるよう試みています。また、畑を借り受け、種まきや収穫などを実際に行ったりもします。このように生活に根ざした、人が生きる上での土台となる「根っこの教育」を大切に考えています。

さらに、大きな教育的特徴として、道草教育を実施しています。これは開校以来受け継がれ、今も同志社型アクティブラーニングというサブタイトルのもと、本校の教育活動の主柱となっています。具体的には、児童一人ひとりが新たな取り組みにチャレンジしていく授業で、調査、取材、観察、実験などの活動を織り込んだものです。また、個人のテーマだけではなく、共同で取り組む共通テーマ型の道草も実施され、そこでは環境、福祉、国際理解、人権、平和、共生などの課題を協働作業で完成させていきます。

これらの取り組みは、小規模でクラス単位の教育がなされている本校では実施しやすく、その効果も大きいと感じられます。今後も教育活動の根幹をなすものとして、リベラルアーツを掲げる同志社の一貫教育の中で、その能力の基盤を育成するよう取り組んで参ります。

参考文献　2014年度研究収録　同志社小学校　2015年3月